

IV 各教科の分析結果

国 語

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	2	0.3
80～89	35	5.5
70～79	117	18.3
60～69	144	22.5
50～59	140	21.9
40～49	113	17.7
30～39	61	9.5
20～29	22	3.4
10～19	5	0.8
1～9	1	0.2
0	0	0.0

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
一	問一	①	94.8
		②	84.1
		③	90.8
	問二	48.3	
	問三	74.1	
	問四	68.2	
二	問一	①	99.0
		②	60.0
		③	74.7
	問二	46.0	
	問三	77.9	
	問四	A	64.2
B		50.1	
問五	52.4		
問六	36.9		
小計		57.3	
小計		58.9	

大問	小問	正答率	
三	問一	79.5	
	問二	56.4	
	問三	1	38.4
		2	42.0
	問四	3	49.1
4		46.2	
問五	5	35.1	
小計		48.6	
四	問一	94.8	
	問二	83.8	
	問三	45.2	
	問四	80.8	
	問五	1	60.8
		2	48.6
問六	54.8		
小計		62.3	

*合格者の中から、無作為に抽出した640人(13.3%)の結果である。

*%の数値は、小数第2位を四捨五入したものである。

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一 文学的な文章	62.0	64.3	68.8	67.2	57.3
二 説明的な文章	50.3	62.8	57.4	65.3	58.9
三 言語活動	38.4	42.0	49.2	69.2	48.6
四 古典	59.4	51.2	58.9	52.0	62.3

2 分析結果の概要

合格者の国語の平均点^(※)は、55.2点で、昨年度と比べ下降した(昨年度62.7点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,812人のものである。

〈表1〉について、60点台の人数が全体の22.5%で最も多い(昨年度は、70点台で24.9%)。70点以上の人数は全体の24.1%で、昨年度に比べ減少した(昨年度39.7%)。40点未満の人数は全体の13.9%で、昨年度に比べ増加した(昨年度5.8%)。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は7問で、基礎的・基本的な言語事項を問う問題の正答率が高かった。具体的には、漢字の読み書き(一の問一など)、文語のきまり(四の問一)、主語と述語の照応(四の問二)、訓読の仕方(四の問四)の問題の正答率が高かった。正答率40%未満の問題数は4問で、資料等を活用して説得力のある文章を書く力を問う問題の正答率が低かった。具体的には、登場人物の言動の意味を考える(一の問五)、文章の構成や展開について評価する(二の問六)、資料を適切に引用して説得力のある文章を書く(三の問三の1)、事柄や意見が相手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えて文章を書く(三の問五)の問題の正答率が低かった。

〈表3〉について、四の問題の正答率は昨年度より高かった。一方、一、二、三の問題の正答率は昨年度より低かった。

3 標準解答及び大問ごとのねらい

☐ 〈標準解答〉

問一	① 浅	② しんぼう	③ 捨
問二	イ		
問三	ア		
問四	イ		
問五	(例) 陸別を離れたとしても、故郷という心棒があれば、羽ばたく勇気を持てるという意味。		
問六	エ		

〈ねらい〉

高校受験を間近に控えた主人公を温かく支える故郷の人々との交流を描いた素材を通して、登場人物の心情や言動の意味を考える力、人物設定の仕方をとらえる力、文章の表現の仕方について評価する力等の基礎的・基本的な知識・技能をみる。

☐ 〈標準解答〉

問一	① せま	② 交信	③ ひた
問二	ウ		
問三	ア		
問四	A	(例) 周囲の他者に儀礼的に無関心を示し、安心な距離があることを示しあっている	
	B	(例) 周囲の他者への関心を喪失し、安心な距離を保つための儀礼の実践を怠っている	
問五	エ		
問六	ウ		

〈ねらい〉

通勤電車で新聞や雑誌を読む姿とスマートフォンに没入する姿の違いを社会的に分析した素材を通して、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けて要旨をとらえる力、文章の構成や展開について評価する力等の基礎的・基本的な知識・技能をみる。

☐ 〈標準解答〉

問一	(例) 言	
問二	ウ	
問三	1	場の雰囲気や和ませ、楽しくする
	2	相手との親近感や連帯感を表す
問四	3	(例) 話す言葉がみんなに通じること
	4	(例) 同じ地域の人にしか通じないことがあること
問五	5	(例) 共通語は大勢の人に話すときや改まった場面などで使い、方言は家族や友達と話すときやくだけた場面などで使うとよいでしょう。

〈ねらい〉

「若者と方言」について調べたことをまとめて発表する場面を通して、社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集める力、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用する力、説明や具体例を加えて説得力のある文章を書く力等の思考力・判断力・表現力等をみる。

四 〈標準解答〉

問一	おそわれよ	
問二	イ	
問三	ア	
問四	伐 _二 孤 竹 _一 (一・二点を使用)	
問五	1	(例) 雪で道が見えなくなった
	2	(例) 老馬は道が分かっている
問六	エ	

〈ねらい〉

「老馬之智」に関する古文と漢文の比較を通して、文語のきまりや訓読の仕方、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像する力等の基礎的・基本的な知識・技能をみる。また、歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむための思考力・判断力・表現力等もみる。

4 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点				正答率	
				選択	短答	記述	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識理解		
二	一	文学的な文章	文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。		○					●	Ⓐ94.8 Ⓑ84.1 Ⓒ90.8	
	二		文脈の中における語句の意味を的確にとらえ理解することができる。	○					●	●	48.3	
	三		登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる。	○						●		74.1
	四		登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てることができる。	○						●		68.2
	五		登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てることができる。			○				●		26.8
	六		文章の構成や展開、表現の仕方について評価することができる。	○						●		46.3
三	一	説明的な文章	文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。		○					●	Ⓐ99.0 Ⓑ60.0 Ⓒ74.7	
	二		抽象的な概念を表す語句に注意して読むことができる。	○					●		46.0	
	三		文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容の理解に役立てることができる。	○						●		77.9
	四		文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨をとらえることができる。			○				●		A 64.2 B 50.1
	五		筆者のものの見方や考え方に、知識や経験と関連付けて自分の考えをもつことができる。	○						●		52.4
	六		文章の構成や展開、表現の仕方について評価することができる。	○						●		36.9
四	一	言語活動	漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くことができる。		○					●	79.5	
	二		話し合いが効果的に展開するように進行の工夫を工夫することができる。	○			●				56.4	
	三		論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くことができる。			○		●			1 38.4 2 42.0	
	四		共通語と方言の果たす役割について理解することができる。			○		●			3 49.1 4 46.2	
	五		事柄や意見が相手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えて書くことができる。			○		●			5 35.1	
四	一	古典	文語のきまりを知り、古典の世界に触れることができる。		○					●	94.8	
	二		文の成分の照応、文の構造について考えることができる。	○						●	83.8	
	三		古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物の思いなどを想像することができる。	○						●	45.2	
	四		訓読の仕方を知り、古典の世界に触れることができる。		○					●	80.8	
	五		歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。		○					●	1 60.8 2 48.6	
	六		慣用句などに関する知識を広げ、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	○						●	54.8	